

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成29年度技術情報第7号(サツマイモ、施設野菜のコガネムシ類)について(送付)

コガネムシ類の誘殺状況を取りまとめましたので送付します。今後の発生に注意して下さい。

平成29年度 技術情報第7号

- 1 農作物名 サツマイモ、施設野菜(ピーマン、イチゴなど)
- 2 病害虫名 コガネムシ類(アオドウガネ、ドウガネブイブイ)
- 3 発生状況

- (1) コガネムシ類2種の誘殺数(農業開発総合センター大隅支場予察灯)が平年より多く推移している。誘殺ピークはアオドウガネが8月4半旬、ドウガネブイブイは7月3半旬にみられ、誘殺数は顕著に多い(図1)。
- (2) 8月5半旬までの総誘殺数は、アオドウガネが1,163頭(平年:409頭)で、過去20年間の年間総誘殺数の中で6番目に多い。ドウガネブイブイは1,585頭(平年:621頭)で、既に過去20年間の中で最も多い(図2)。

4 防除上注意すべき事項

【サツマイモ】

- (1) コガネムシ類幼虫のサツマイモへの加害は、例年2齢幼虫が多くなる8月下旬頃から目立ち始める。定植前に薬剤を土壌施用したほ場でも2齢幼虫に発育すると薬剤が効きにくくなるため、被害が進展していく。このため、例年、被害が多いほ場では試し掘りなどして、早めに掘り取る。
- (2) 定植前に薬剤を土壌施用し作畦した場合、薬剤は下層へ到達しにくい。これに対して、コガネムシ類は土壌中に潜って産卵することから、成虫の発生量に伴って下層に分布する幼虫数も多くなり、被害が増加しやすいと考えられる。

【施設野菜】

- (1) 促成ピーマン栽培では、コガネムシ類幼虫が2齢幼虫に発育する10月中旬頃から主根など根部への加害による葉の下垂や生育遅延が問題となっている。被害の多い地域では栽培ほ場への侵入対策および定植前後の防除を徹底する。
- (2) イチゴでは例年、定植初期に幼虫の加害がみられるので、定植時に薬剤を土壌施用する。
- (3) その他の野菜でも萎凋症状が見られる場合、コガネムシ類幼虫が根を加害していることがあるので、発生に注意する。

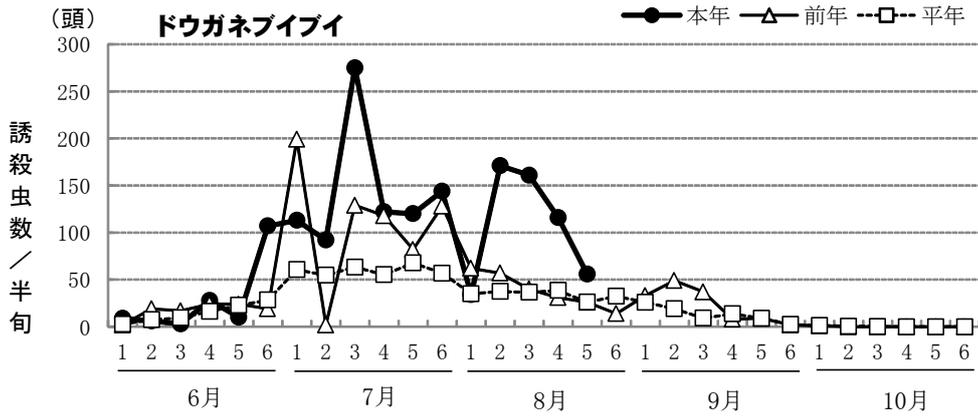
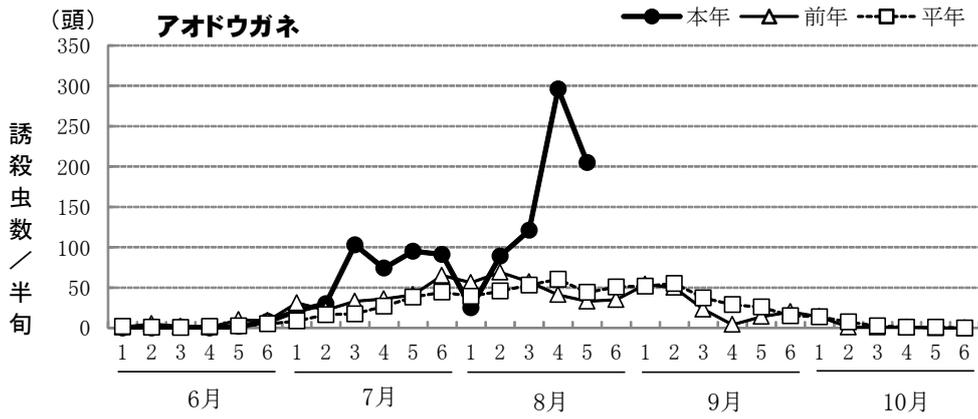


図1 予察灯におけるコガネムシ類の発生消長

注) 農業開発センター大隅支場調査 (2017年8月4～6日は欠測)

平年は過去10年間の平均値

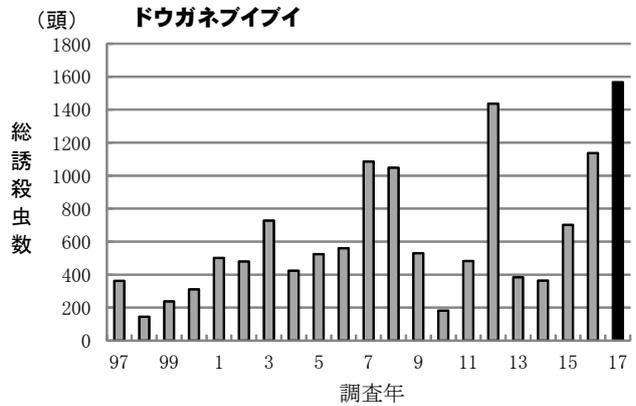
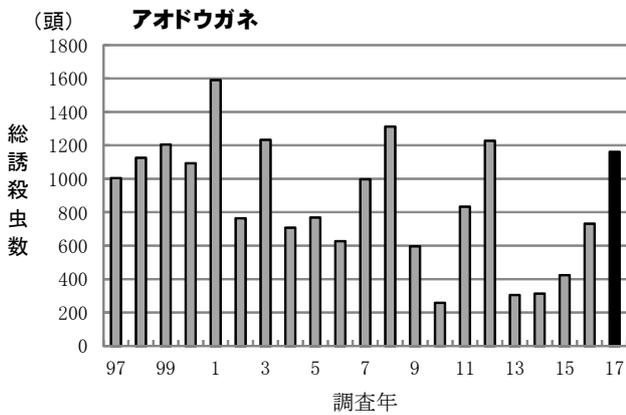


図2 予察灯におけるコガネムシ類の年間総誘殺数の推移

注) 2017年は8月5半旬までの総誘殺虫数